

# 海 (かいし) 市

No. 29

## ● 詩

- 02 前田 勉 晩夏のために (6)  
06 横山 仁 生活の柄 (23)

## ● エッセイ

- 08 細部俊作 外輪のアキアカネ  
12 佐藤ただし 水田とツバメ (27)  
16 横山 仁 雑記 (29)

晩夏のために (6)

前田 勉

音頭上げが響きわたる  
本町通り

の

その先へ

また一台ひとつ

戻り曳山やま\*が

ざわつく遠い記憶を引き連れて  
駆けて行く

乾いた山ツゲの香り

物言わぬ振り棒役の木車輪わっぱさばき

小刻みにふるえる武者人形の指先  
哀しく揺らぐ提灯のあかり

後追いする人の華やかさ  
見送る人の思い  
立ち止まる人の出会い

ゆれてゆれて

ゆらりと

ゆれて

人混みを避け

なつかしい路地へ入ると

突然

音が消えた

ひきこ  
曳子の酔い弾む声も

甲高く響くはずの拍子木も

木車輪の軋む音も

あいや節の囃子も

みんな

重ねられてきた時間の襞に  
すっかり呑み込まれてしまい

あるのは

そこかしこに沈潜する

不確かな記憶

気付くことができなかつた

遠すぎる日

の  
痕あと

茫漠として

熱風を巻き上げ

通りから

その先の

闇へ

重なる季節を振りきるように

夏が

駆けて行った

\*秋田・土崎港曳山まつり

生活の柄(23)

横山 仁

納骨をおえ

いのちは

はてのない

ふるさとへかえっていった

そういえば

ことしの春は

かえるも

野良猫も

いのちを 鳴らさなかった

黙祷していたのかもしれない

子は

親を超えられない

から

片付けられない

記憶をかかえて

坪庭<sup>つぼ</sup>を這いずり回っている

ふと見上げると

木槿<sup>むくげ</sup>の花

## 外輪のアカカネ

細部 俊作

七月下旬のある日、鳥海山五合目の鉾立を出発した。朝とはいえ、七時半を過ぎると強い日差しが左前方から照らすので、それを遮るように帽子のつばを傾けて歩いた。賽の河原を経て七合目の御浜に着いたのは九時過ぎだった。鳥ノ海の遙か後方に見えるはずの月山は雲に隠れている。高原状の扇子森から御田ヶ原へ。七月のこの辺りのお花畑を目当てに来る人もいるのではないだろうか。シナノキンバイ、ミヤマダイコンソウ、ハクサンイチゲ、ヨツバシオガマ、ハクサンフウロが咲き、それにミヤマウスユキソウ、チングルマもまだ咲いていた。少し離れた南側の斜面にはニッコウキスゲが広がっている。

七五三掛しめかけの先にある分岐では千蛇谷へと下っている。

く。谷の底に降り立つと、雪溪からの涼気が気持ちいい。外輪山の崖にまだ日は当たらず、眠っているようだ。雪溪沿いに登るこの路を、登りがいがある、などとと思うのは登り始めのときばかりで、そのうち、息も激しくなり、足取りは重く、何度も止まっては遙か上に広がる岩稜のあたりに山頂を探したり、後ろを振り返っては、雪溪に下りた地点からどれだけ遠くなったかを測ってみたりする。幸い雪溪が近いこともあって気温は二〇度を下回っている。たまに風がそよいでくれるのがありがたい。

たらたらと登って、山頂下の広場にはお昼前に着いた。腰を下ろすのにちょうどよい形の岩を探しあてて、外輪山の絶壁や雲を見ながらおにぎりやパンで昼食とした。今日は頂上まで行く気はなく、七高山に行った後は外輪山を歩くことにしている。

初めて鳥海山に来たのは昭和四十七年、二三歳のときで、職場の二、三十代の若者十人くらいのレクリエーションで来た。その二年前には鳥海ブルーラインが開通していた。御浜小屋の目の前の草原にテントを張っ





たが、そのうち雨が

降り始め、風を伴っ

て雨脚は強まり、急

きよテントをたたん

で皆で小屋に逃げ込

んだ。翌朝早く山頂

へ向かう組と残る組

に分かれ自分は御浜

に残った。山頂へは

いかなかったが、こ

れが私の二度目の登

山（最初は白神岳

で、やはり同じ仲間）

だった。昭和四九年

三月には鳥海山から

噴煙が上がり、三か

月間も続いたという。

当時の私は、山への

関心は薄く、ニュー

スに接してもほとん

ど興味がわかなかった。

初めて山頂（新山二、二三六m）に登ったのは昭和五六年だった。職場の先輩と二人だったが、無数の巨岩が不規則に積み重なっていて、その異様さに驚いた。岩の角をつかみ、凹みに足をかけ、四つん這いになって矢印の方に進んだ。そして新山山頂の狭いことも意外だった。下りは今回と同じく外輪コースを下った。御田ヶ原で食べたオレンジがうまかったことを思い出した。

昼食後、大物忌神社奥宮を参拝後、外輪山への急登を登って七高山へ。七高山から西には厚い雲が立ち込め、北から東にかけて雲海が広がっていた。外輪上には多くの赤とんぼが飛び回っていたが、大分前、おびただしいほどの赤とんぼが群れていたのは岩手山だった。不動平から上のお鉢を西側から山頂に向かって行くと、無数の赤とんぼが飛び交っていた。山頂で昼食を広げた人たちの中からアキアカネという声が聞こえたので、それまで「赤とんぼ」と呼んで済ませていたトンボの本来の名をこの時初めて知った。それ以来今

に至るまで、アキアカネは高山を飛んでいて、平地の赤とんぼとは別種だとばかり思っていたが、今回、下山後に調べてみると違っていた。

いわゆる「赤とんぼ」の代表種はアキアカネとナツアカネで、高山で飛んでいるのはアキアカネ。ナツアカネは平地だけで生活すると記されていた。アキアカネは暑さが苦手なので、水田などで羽化した後、体力をつけてから徐々に気温の低い、標高の高い山地へ移動する。成長期を高山で過ごすうちに、体はオレンジ色から赤色に変化していく。そして、平地が涼しくなる秋には、大群をなして数十キロもの距離を移動して山を下り、平地のため池や水田などに産卵する。「水田に戻ってくる彼らの翅は傷み、体も産卵のため汚れている」（トンボの生態学「渡辺守」という件には観察者のあたたかい眼差しが感じられる。小さな羽虫などをエサにするというけれど、標高二千m付近にエサとなるような虫はいるのだろうか、捕まえられるのだろうか、暴風雨の日はどうしているのだろうかなどと思っただが、虫の能力を人間が心配しても始まらない。彼らは一二月月上旬に一生を終えるが、卵の方はそのま

ま越冬し、春に孵化し、幼虫（ヤゴ）となって成長する。鳥海山は独立峰だから、周辺の田んぼなどで育った後、涼しさを求めて向かう先はこの山しかない。とすれば私が外輪で見たトンボは、去年鳥海山に昇ってきたアキアカネの子だったと想像してもおかしくはない。山麓の人たちが鳥海山から水の恩恵を受けてきたように、トンボたちにとってもこの山はありがたい存在なのだと思われた。

\*

外輪山のコースは、右側の岩山や灌木類が途切れると、足元間に断崖絶壁が迫っている。そこからは新山山頂部や昼食をとった広場が見え、さっきたどってきた千蛇谷雪渓沿いの路を見下ろせて、今も、その路を登る人下る人がまばらに蟻の大きさに見える。左側の南面は緩やかな起伏がかつての溶岩流の跡を思わせ、それを覆いかくすような草原が広がって傾斜している。この路も花が多く、イワギキョウ、イワブクロ、トウゲブキ、シヤクナゲ、ウサギギクなどが咲いていて、写真を撮っているとそれだけで時間を食ってしまう。数年前の同じ時期にチョウカイフスマを撮ってい

ると、通りがかりの登山者から声をかけられた。自分は九州・久留米から来た。向こうのイワカガミの花期は五月で終わるが、ここでは今咲いている、といって驚いていたことを思いだした。こちらはそんなに遠くから登りに来る人もいることに驚いた。

この外輪の路には展望のきく地点や、落差のあるハシゴ場も数か所あって変化に富んでいるので飽きることがない。雲と同じ高さに自分が立っているという高度感、外輪山から下を覗くときのまた別の高度感、山肌を縫うように続く路が稜線に消え、そこから見えないう先にも路が続いているという遙かさなどは、高山でしか味わえないように思う。鳥海山はそれを満足させられる。

八丁坂を登り終え、扇子森の平坦な路を行くとき、数年前になぜか「サンホセへの道」が耳の奥の遠くで鳴りはじめた。そのときからこの路を通るときその曲を思い出す。歌詞の日本語訳を短くするとこんなふうだ。富と名声を求めて大都会に行ったが夢ははかなく消えた。車に荷物を積んでこれから故郷サンホセに帰るところ。年月の過ぎるのは本当に早い。何年も離れ

ていたからサンホセへの道を間違えそうだ。サンホセへの行き方知ってる？ 二十歳前後に流行った曲が、今ごろなぜ浮かんでくるのか。山にきて気持ちが解放されているからかもしれない。

水の残りが減ってきていたので、御浜小屋で水とスポーツ飲料を買って喉と体をうるおしてやった。しかし、そこから先の路にはいつも難儀させられる。石の敷かれた路を踏んで歩くうちにヒザも腿も疲れてくる。そうなる大きな石の段差を正面を向いたままでは下りるのがつらくなってくるのだ。下りだからといって登りより楽だとは限らない。小休止してヒザを十分に屈伸させてから、再び普通に歩く。つらくなると疲れたカニのように横向きに一步一步杖と脚を前へ下ろして進み、また休む。そんなことを繰り返して汗だくになって下つていくとようやく終点の鉾立駐車場が見えてきた。

## 水田とツバメ（二七）

佐藤ただし

### ・引き継ぐ

毎年身近な人が亡くなってゆく。新聞のお悔み欄で知っている人の名前を見ると生前の姿を思い出すが、長く田んぼを作っていた人だと、静かに役割を終えて舞台から消えてゆくような印象を持つ。

今年も近くに住む二人の先輩が四月と六月に病気で亡くなった。まだ七〇代前半の若さだった。四月に亡くなったKさんは私と同じ町内で暮らし、消防や農業の生産組織などで一緒だった。若い頃は数人で楽農会というグループを作り、私も仲間に入れてもらっていた。この会は田植えが終わった六月初めから一〇日こ

とに集まり、各自の田んぼを回って生育調査をし、イネの育ち具合や病害虫の有無などを調べていたが、この会の指導的な役割をされていた。イネや野菜の成長過程を観察し、次の作業につなげることができた人だった。

数年前から体の不調があり、思ったように仕事が出来なくなっていたため、昨年からKさんの田んぼの管理を私が引き継ぐことになったが、とてもきれいな仕事をする人だったので、私のような雑な人間であれば、本来は断るところだが、二つ返事で承諾していた。

今年の春先にKさんの田んぼを見に行くと「あげ」と呼んでいる排水桝の中に、水の高さを調節する板が入っていた。普通であれば、排水桝の幅に合わせて杉の板などを切り、入れておくだけだが、取り外すことが容易にできるように、それぞれの板に取手が付けられていた。そうした細かい仕事をする人だった。

もう一人のTさんは隣の町内の人で、大柄で存在感のある、仕事熱心な人だった。お盆も過ぎた去年の今頃、Tさんの田んぼの近くに私が管理している田んぼが三枚あり、お盆休みで数日休んだ後に田んぼを見に

行ってみると、稲穂の間から一面にヒエが顔を出していた。毎年のことだがこの時期になるとヒエがイネの背丈を超えて顔を出し、普段の田んぼを見る目の甘さを痛感することになる。

そんな私の田んぼから二〇〇メートルくらい離れた所で、やはりヒエを取っていたのがTさんご夫婦だった。例年であればヒエなど見えないきれいな田んぼを作っていたのだが、昨年はどうした訳か三〇アールの田んぼ二枚のほぼ全面にヒエが顔を出していた。さすがにこれだけ生えると、やる気をなくし取るのを諦めてしまうところだが、Tさんご夫婦は毎日、午前と午後にやって来てきて、田んぼの端から順にヒエを取って行き、軽トラックいっぱい積んで往復していた。

近年はヒエが発生している田んぼが目立ち、私の隣の田んぼの奥さんも、夕方、枝豆畑の草取りを終えてから田んぼのヒエ取りに来ていた。ヒエ取りのようなこうした地味な作業を続けていると、ある種の連帯感のようなものが生まれ、私もつられてやり通すことができた。

Tさんは鍔の短い麦わら帽子を被り、ヒエで覆いつ

くされたような田んぼに入り、刈り取った束を両手に抱えながら仕事をしていた。

そして三週間ほど奥さんと二人で作業をし、とうとうきれいな田んぼに戻した。田んぼを作っている者の意地と言うか責任と言うか、そんな印象を受けた。

Tさんは、今年急病で亡くなるとは、当人も全く想定していなかっただろうが、来年からTさんの田んぼを引き継いで作る人に、こうしたきれいな形で渡すことができたことは本望だろう。

### たったひとりのひと

我が家は今のところ、来年九〇才になる父と、その一つ年下の母と一緒に暮らしている。父は若い頃から喫っていたタバコが原因の肺気腫で、酸素を強制的に肺に送らないと苦しく、家の中も車椅子で移動している。また母も膝に悪い畑の草取りなどをやりすぎて、膝関節に水が溜まることが多く、定期的に病院へ行って水を抜いている。この現状を作り出した原因の一つは、きつい農作業に追われた若い頃の生活にあったと

思えば、自業自得とばかりも言っていられない。

父は最近殆どベッドから起き上がらず、寝ているだけになったが、そうした姿を見てみると、弱った体でベッドで一日を過ごすのも大変なことだと思ふようになった。もうそんなに長くはない、人生の最後を傍で見てみると、二〇年後の自分はこうはなりたくないと思ふ一方で、いずれはこうした状態を経て、あの世に行くのだろうと想像できる。

今はシャッターを下ろしてしまつたが秋田市南通の古本屋で本を探していた時、郷土誌を置いているコーナーの一角で、手に取つた一冊の本があつた。その本の題名や著者をはっきり覚えていないが、開いたページに次のようなことが書いてあつた。

人は、なぜ生きているのか

それは、たったひとりのひとと出会うため

最近、私にとってたった一人の人は、もしかしてこ

の父かも知れないと思うようになった。ずっと同居していながらろくに話もせずに来たが、車椅子を押したり、病院へ連れて行つたりしているうちに身近に感ずるようになった。また、普段の暮らしの中で、何をし、何をせずに生きてゆくのかと改めて考えた時に、周りを気にせずに、自分の為すべきことを為すという在り方を教えてくれたのは父だつた。人にはそれぞれ為すべきことがあり、その為すべきことを為し、その後に為したいことを為せばよい。と最近では考えている。

### 縄張り或いは自分の居場所

家の畑に毎日のようにやって来る二羽のカラスがいる。嘴の形や振る舞いから、ここを縄張りとしている同じカラスだと思つている。

私はほぼ毎日、食事に使つた野菜のくずを畑の隅に作つた肥塚に捨てに行くのだが、その中に味噌汁に入れた煮干しなどの残飯が混ざっているため、それを食べにやってくるようだ。

このカラスを見かけるようになって、四年くらい経

つが、今では私との距離もだいぶ狭まり、私と言う人間を識別しているようだ。肥塚に近づいて行っても遠くまで飛んで逃げることをせず、少し離れた所に歩いて行ったり、肥塚に残って神妙に私の行動を観察していることもある。

今年、この二羽のカラスが三羽の子ガラスを連れてくるようになった。畑から遠くない、樹木の中の一本に巢を作り、そこから飛んでやってくるようだ。正確には子ガラスが勝手に親鳥にくつついて来るのだが、これがなかなかぎやかだ。

私はカラスは二個の卵を産むものだと思いついていたが、三羽の子ガラスが親鳥と一緒にいるところを見て調べてみると、ハシブトガラスは二から五個、ハシボソガラスは三から五個の卵を産むということだ。畑に来るカラスは嘴が細いハシボソガラスで、三羽の子供がいてもおかしくはない。

このカラスの親子は私の畑を縄張りとしてるので、当然、親子の行動範囲も畑の近くになる。そのためお腹をへらした子ガラスは遠慮なしにガーガー鳴き、親の後を付いて歩いている。親鳥としてはこの

場所を他のカラスに知られたくないので、子ガラスに騒いでほしくはないのだが、子ガラスはまだ親の気持ちを知らない。カラスの子育ては一〇カ月から約一年と言われている。一人前になるまで暫くはにぎやかな子育てが続く。

そして子育てと共に、この縄張りの確保も続けてゆかなければならない。私という食料運搬人が毎朝エサとなるものを運んでくるのだから、カラスの親子はここを死守しなければならぬ。よそ者のカラスが来ると猛然と追いかけてゆき、追い払う。この居場所は戦って勝ち取っているわけだ。おかげで家の畑は他のカラスにいたずらをされることはまず無い。

私もここに来るうちに、いつの間にかこの畑が自分の居場所になりつつある。自分の居場所とは、こちらからの働きかけが受け入れられた場所のことのようだ。この畑も放置すれば雑草がはびこり、草に居場所を奪われてしまうが、手入れをしているうちは、ここは自分の居場所になるということが分かった。

## 雑記 (29)

横山 仁

インチキコロナに関しては、もうやめようとおもっていたら、新しい情報があったので紹介しておく。

はぐらめいさんのブログ(「移ろうままに2」)の「緊急速報！ mRNA で想定外の報告 [コロナ危機]」より。リンクがあるので、詳しく知りたい人はそこから。

(引用開始)

68\_名前：mespesado 2022/08/19 (Fri) 22:57:53

緊急速報！ mRNA で想定外の報告、逆にコロナへの免疫を抑制&一生の記憶になる可能性有り、特に子供は一旦接種中止して検討を！

<https://note.com/miyazawane10709/n/n38faeb20cbdf>

↑いわゆるADEとは異なる、mRNAワクチン独自の道のメカニズムに関する報告です。重要なので、メモがわりに張り付けておきます。

69\_名前：mespesado 2022/08/19 (Fri) 23:05:40

>>68 の論文内容を要約してわかりやすく要約した女医さんのブログ記事↓

<https://ameblo.jp/drminor/entry-12757361129.html>

\* \* \* \* \*

《追加接種をすることでどうもその免疫抑制のIgG4は増強されていく 人体は「こんなに繰り返し同じものがmRNAとして入って来るようなものは異物では無いようだから免疫を抑えよう」という認識に至った訳です》

《ウイルスをやっつけてくれる抗体ができるのはいいですが、逆にウイルスを異物と見なさないような抗体



子ども発症予防90.7%はデルタ株以前のデータです

小児コロナワクチンの  
オミクロンに対する効果



出典：米NY保健当局による論文報告(2022.2.28プレプリント発表) Effectiveness of the BNT162b2 vaccine among children 5-11 and 12-17 years in New York after the Emergence of the Omicron Variant

5歳から11歳の方は、重症化はまれであること、  
オミクロン株に対する効果の客観的証拠が無い※  
自分にも他人へも感染を予防する効果は期待できない※  
こと等から 努力義務の適用が除外 されました。

※ 第29回厚生労働省感染症対策部会より 下記QRに請求書・勧誘リンクあり



一般紙やテレビ等でも伝えられています。正しい情報を得て考えましょう。

3/15日新聞9分刊 (一部有料)



bit.ly/3HXZGe9

作成：宮澤大輔 医師  
news.23号で専門家としてコメント

@blanc0981

※ 有償記事と出典論文からの抜粋で無料公開可能

PDF・論文リンク



bit.ly/3HIAZBt

スマホからはQR拡大もスクリーンショット ▶ LINE友達追加のQRリーダーで読取可能

ができるかと大変です。》

《特に幼少時の免疫記憶は一生続く傾向にあり、リスクを考えずメリッットの少ない生後6か月に mRNA を注射するなど言語道断。一生コロナに対する免疫応答が未接種の子どもと異なった人生を歩む可能性。だから私はそもそも重症化しない子どもへの緊急承認 mRNA ワクチンの接種を全身全霊で反対してきたわけです》

【注、以下めいさんのコメント】

「僕はワクチンを打つつもりが全然ない。まず、新型コロナウイルスは僕にとっては「ただの風邪」としか思えないからです。」 by 近藤誠医師

<http://oisdurry.blog.fc2.com/blog-entry-4482.html>

\*\*\*\*\*

あなたは新型コロナウイルスを打ちましたか？

新型コロナウイルスを打ったことでコロナに感染しない体

になったと思いますか？

政府は4回目接種とか言ってますが、おかしいと思いませんか？

子供の新型コロナウイルスを「努力義務」にしようとしていることをおかしいと思いませんか？

コロナとされているものは風邪程度の症状であると思いませんか？

にもかわかわらず、危険なワクチンを推奨していることをおかしいと思いませんか？

「風邪程度のコロナ」と「危険なワクチン」のどちらが危険だと思いますか？

そもそも「風邪程度のコロナ」にワクチン接種の効果がありましたか？

ワクチン接種した人の方がコロナに感染しているんじゃないんですか？

周囲に新型コロナウイルスが原因だとしか思えない健康被害者や死亡者はいませんか？

あなたは毎日救急車のサイレンの音を聞いていますか？

「コロナの存在証明がない」ことをあなたは知りませ

んか？

存在証明のないウイルスにワクチンがくれるわけがないと思いませんか？

あなたは新型コロナワクチンが治験中だということを知りませんか？

治験中のワクチンを推奨していることをおかしいと思いませんか？

あなたは新型コロナワクチンが遺伝子組み換えワクチンだということを知りませんか？

遺伝子組み換えワクチンを推奨していることをおかしいと思いませんか？

存在証明のないウイルスに治験中かつ遺伝子組み換えワクチンを推奨していることをおかしいと思いませんか？

あなたが政府やメディアの推奨する新型コロナワクチンを打つか打つまいかはあなたの自由ですが、あなたが新型コロナワクチンとは何なのかを理解していないにも関わらず自分の子や孫に打つことを勧めることは犯罪であることを理解していますか？

後でどんなことが起こっても、「政府やメディアが推

奨していたから私は悪くない。私は騙されていたんだ」などと言って自分を弁護しても後の祭りですよ。

by むい (2022-08-21 05:11)

(引用終わり)

\*

安倍元首相の暗殺に関しては、奈良医大と奈良県警の発表がぐいちゃたりしているが、2日前のヤフーに操作指示ミスで暗殺が公表されたらしい。また、新聞の見出しは、予定されていたように、どこの社も同じ。魁は「安倍元首相 銃撃され死亡」。

中でも紹介されているが、Dr.Papa さんとか、「元気なおじい」さんらが、積極的に考察されている。

「放知技」でも、「安倍晋三暗殺事件の真相を追及するスレ」が立ち上げられているが、「混沌に希望を見出す賢者の発信スレ」で、堺のおっさんが簡潔にまとめてくれている。

(引用開始)



349 名前：堺のおっさん

2022/08/17 (Wed) 08:25:47

Dr.Papa 氏の最新動画 (第 19 回)、「屋上で何をしていたのか？」

[https://www.youtube.com/watch?v=\\_QNNawYB-](https://www.youtube.com/watch?v=_QNNawYB-FQg)

FQg

亀さんが暗殺スレで紹介していた動画、なんと一晩で10万アクセスしたそうだな。

Dr.Papa 氏のスタンスも「真実」を知ることがこれからの日本のためになる！

批判の書き込みも少数あったそうだが、相当数の日本人が暗殺という禁じ手にまで手を染めてしまった、それを止められなかった…日本を深刻に受け止めているということですね。

大いに勇気づけられましたね、皆の衆！  
(引用終わり)

(引用開始)

358 名前：堺のおっさん

2022/08/20 (Sat) 23:04:02

山上単独犯なのか、それとも複数犯なのかを問い続けられた。それが暗殺事件の本質の分岐点だからだ。

単独反と断定する警察・検察も、断定したもの…起訴できるかできないか、熟慮中であると。

現状銃弾が発見できていないのに、起訴できるのかと問いかけた青山議員には「捜査」には支障がないという意味不明の返答。

すでに単独犯であると証明することは警察・検察の威信にかかわることになってしまった。

捜査が進んでいるというよりも、いかに矛盾点をなくせるのかというストーリー作りに頭を悩ませる日々であることは容易に想像できる。

いまさら、射入創が右からとは言えないし…

いまさら、致命傷を与えた弾丸は9ミリの金属弾ではなかったとは言えないし、

いまさら、心臓が大きく損傷していたとは言えないし

…

いまさら、山上手製の「銃」は発煙筒でしたと言えないし…

あまりにお粗末な立ストリーであるなら、山上の刑事責任能力がなかったという伝家の宝刀を抜かざるを得なくなるのだろうか。

鉛玉であるならアアゾンで1000個千円程度で売っている。しかも、散弾銃に使える数ミリから10ミリ程度まで豊富にそろっている。

銃弾は鉛が手ごろな金属の中では比重が重いので鉄の弾より変形しながら殺傷力に優れている。

いったいどのような金属片を警察は発見したというのだろうか？

黒色火薬だって、合法的に入手できる。鉄パイプなんかホームセンターで並んでいる。

どんなものだったのかすら詳細は発表されていない。発表しないのは公安上の判断ではないだろうか。

単独犯の根拠は自白しかない。

物証は確立されていない。したがって…断片的な警察発表を100%信じる、という丸呑みにする以外に成り立たない。

メディアも「捜査」の進展具合を取材しない…できないのもうなずける。わ。メディアで複数犯説は完全にタブーとなった。そういうことです。

節々のタイミンズであっても7月8日の事はほぼ報じ

られることすらないだろう。もうこれ以上、国民が疑問を持たないように…忘れてほしいのだろう。

(引用終わり)

(引用開始)

166 : suyap :

2022/08/29 (Mon) 00:00:09

<http://grmba.bbs.fc2.com/reply/17349208/373/>

↑↑

の mespesado さんの投稿より :

マリンさんの新しい記事です :

【新仮説】 スナイパーが撃った場所

<https://ameblo.jp/amiraclehappens/enry-12760949059.html>

ここでは、狙撃犯のいた場所を「サンワ西大寺東町ビルの非常階段」という仮説で説明しています。

【安倍元総理】銃撃事件現場『スナイパーの位置を解析』単独犯ではない!? 新仮説

[https://www.youtube.com/watch?v=0kIKK6\\_c0Gtc](https://www.youtube.com/watch?v=0kIKK6_c0Gtc)

また文化人放送局の無料版で、

高田純博士が検証した結論「山上容疑者以外の誰かが撃った弾丸が安倍元総理の命を奪った」2つの証拠とは？ 実際に映像を使って解説。

[https://www.youtube.com/watch?v=ijptL\\_L6ybbU](https://www.youtube.com/watch?v=ijptL_L6ybbU)

によって、ヤマガミ号砲二発目直前に安倍さんのショット右襟がはためいた映像を、ヤマガミの号砲音声では説明がつかない=別の狙撃犯がいた、と説明しています。

また狙撃場所としては、やはり上記の「サンワ西大寺東町ビル」を仮定しています。(以下略)

(引用終わり)

## あとがき

◆「処暑」が過ぎたら虫の音が多く聞こえるようになり、薄暮になる時間も早くなってきた。気付かないうちに季節は巡っている。時間経過の早さと取り残されるような気持ちが入り混じる。そういえば小誌は9月1日で7年目。こちらも時の早さを感じる。(B)

◆ウクライナの最高峰は国の西南端にあるホヴェールラ山。ウクライナの人たちのシンボリックな山のようなのだ。標高2,061mは、鳥海山外輪とほぼ同じ高さだった。位置的に砲弾の音からは遠いと思われるが、戦時下の今、この山に登る人はいるのだろうか。あれから半年経った。多くの人の命が失われ、街の破壊が続いている。いつまでこんな愚かな戦争を続けるのだろうか。(S)

◆畑には野菜の種を買って播いても芽が出ない場合があるが、逆に何もしなくても勝手に生える青紫蘇のようなものもある。この青紫蘇を刻んで瓶に入れ、オリーブオイルと醤油を入れて掻き混ぜるとアジアとヨーロッパがコラボしたような不思議なおいしさを味わえる。野菜サラダや肉料理に掛けても良いようだ。これにゴマやニンニク、酢を入れてドレッシングにしてみるのも良いと思う。(T)

◆たぶん10年以上前に古本で買った『人間の美術』1巻「縄文の神秘」をようやく読了。2巻は「稲と権力」。そういうわけで、北村瑠美さんが送ってくれた「らせん」創刊号も、おもしろそうな論考がならんでいるが、手つかず。『世界の大遺跡』13巻なども本棚の飾りです。(J)

---

「海市」 第29号

2022年9月11日発行

発行 書肆えん

秋田市新屋松美町5-6 横山方